

科目ナンバー	C4509	要件	選択必修	授業形態	演習	対象学生	I A B I I C D
授業科目	音楽の基礎Ⅲ (子どもの歌)						
実施期	後期	単位数	1単位	授業担当者	平松 陽子・奥野 かおり		
【科目の概要】							
歌唱の基礎となる発声法や音程練習を繰り返しながら、保育現場でよく歌われる子どもの歌について、その意味を理解し、どのように歌えばそれをより良く表現できるかを学ぶ。また、これまでの復習や実技テストの折に、演奏を相互評価することで、自らの表現を振り返り高めていく。							
							【関連DP】
ア	知らない曲であっても、自分で読譜して歌おうとしている。						4-d
イ	恥ずかしがらずしっかりした大きな声で歌うなど、保育者として必要な発声法を習得している。						2-d
ウ	各曲を表現力豊かに歌う。						2-d 4-d 3-a
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	授業内容の説明、発声のしかた、音程練習（以降、随時実施）			月 日	地声と裏声の発声の違いを理解し、裏声発声ができるように練習する。		
2	子どものうたについて (1) ことりのうた 他			月 日			
3	子どものうたについて (2) おかあさん 他			月 日			
4	子どものうたについて (3) こいのぼり 他			月 日	地声と裏声を使い分けながら歌えるように練習する。		
5	子どものうたについて (4) すてきなパパ 他			月 日			
6	子どものうたについて (5) あめふりくまのこ 他			月 日			
7	子どものうたについて (6) しゃぼんだま 他			月 日			
8	これまでの復習、子どものうたについて (7) たなばたさま他 (獲得を目指す力の確認)			月 日	習った曲についてのイメージを、自分なりに具体的にもつ。 (1時間)		
9	子どものうたについて (8) おなげなんてないさ 他			月 日			
10	子どものうたについて (9) きのこ 他			月 日			
11	子どものうたについて (10) まっかな秋 他			月 日			
12	子どものうたについて (11) うれしいひなまつり 他			月 日	歌の表現に合った子音や母音などの発音の仕方を工夫する。 (0.5時間)		
13	子どものうたについて (12) 学歌 他			月 日			
14	子どものうたについて (13) コンコンクシャンのうた 他			月 日			
15	子どものうたについて (14) さよならぼくたちの保育園 他			月 日			
16	実技テスト（演奏発表と相互評価）			月 日			
【教科書・テキスト】 「幼児のうたとあそびの本」（本学編）				【成績評価の方法】 実技テスト90%、平常点(受講態度・積極性など)10%			
【参考書・教材】							
【履修要件及び履修上の注意事項】 人前で歌うことを苦手だと感じる人も、しっかりした大きな声で歌うこと。 実技の授業なので、積極的に授業に臨むこと。 実技テストはすべて暗譜で行う。							
【履修上の遵守事項】 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先：                      レッスン室 1                      オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	楽譜を見て歌唱しようとする意欲		楽譜が読めなくても、他の人が歌っているのを聞きながら、その声に合わせて一緒に歌おうとする。	リズムや音程を間違えることを恥ずかしがらず、まず自分一人ですっきりとした声で歌おうとする。	わからない箇所は、既習の曲の同様の箇所を調べてどのようなだったのか考え、それを当てはめて自分で歌おうとする。
イ①	地声と裏声を混ぜた無理のない発声法		実際に使い分けができなくとも、発声（地声と裏声）の違いについて理解している。	歌うときに地声と裏声とを意識して使い分けができる。	地声と裏声をうまく混ぜながら、どの音域でも無理なくしっかりした声で歌うことができる。
イ②	音程の理解と楽譜に指定された調で歌唱する力		次の音に対し、音程がどのように・どれだけ変化するかを考えながら、歌うことができる。	自分の歌い始めの音程を、楽譜に指定された調の開始音から歌うことができる。	多少の音程の違いはあるものの、ほとんどが楽譜に指定された調の音程で歌うことができる。
ウ①	一つの言葉またはフレーズを表現する際の、感情の程度による表現の使い分け(2-d)		一つの言葉またはフレーズを表現する際に、様々な感情によって歌い方を変えたり、程度によって段階的に表現しようとして意識している。	感情の程度を段階的に表現する際、程度の違いを自分なりに歌い分けすることができる。	感情の程度の違いを、他者にも分かるようになり明確に歌い分けすることができる。
ウ②	歌詞や曲調を理解し、喜怒哀楽などを声で表現しながら歌おうとする意欲(4-d)		歌詞や曲調から自分なりに想像して、主人公の感情や曲全体のイメージを明確にもつよう意識して取り組んでいる。	自分で想像した感情やイメージを、声で表現して歌おうと努力している。	よりイメージ通りに表現するために、発音や音色など歌い方を工夫している。
ウ③	これまでの復習や実技テストにおける演奏の相互評価(3-a)		他者の演奏を聞き、工夫して表現している箇所や、表現が足りない箇所に気付くことができる。	他者の演奏を聞き、その人が表現したいことに対しどの程度表現できているか、客観的に評価することができる。	他者の表現を聞き、どのように工夫しているか、方法が具体的にわかる。また、それを自分の表現に生かすことができる。
<p>※授業時間外学習について・・・塗りつぶした欄の内容は、その課題ができるまでの時間に非常に個人差があるもので、場合によっては半年かかっても習得できない者もいます。また、例えば「約△時間費やせば、地声と裏声を使い分けながら歌えるようになる（その程度で習得できるようになる）」などの誤解を避けるためにも、敢えて時間設定をしていませんので、ご理解ください。 なお、学生には初回の授業時に補足説明します。</p>					
<p>この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等</p>					